

## 2011年度若手教員の会

### 第8回 若手教員懇談会のご報告

2011年7月31日 朱雀キャンパスにて第八回若手教員懇親会が行われた。

まず、開会挨拶を兼ねて、立命館学校協議会会長の崎野先生からシンポジウムの題である「コミュニケーション力」について記念講演をしていただいた。

その後全体会として、日々教育現場で奮闘している若手教員4名をパネラーとし、立命館大学教職教育推進機構准教授の山岡先生をお迎えして、シンポジウムが行われた。

まず4人の先生方に自分の受け持っている児童や生徒の現状について話して頂いた。学年によって様子は様々だ。

●1年生・・・「遊ぶこと」がコミュニケーションをとることに直接つながる、何も言わなかったら1人で好きな遊びをするので皆でやってみたらおもしろいということ伝えるようにしている。

●3年生・・・自分の思いを自分の言葉で言えるよう指導している。一歩待って「他の人はどうか」と考え、助け合いや教えあいを促している。横のつながりも作りたいた問題が起こったときに自分で解決できるような力をつけさせたい。「先生が言ったら解決するの?」といった投げかけをして子どもたちに返し、彼らの力でクラス経営ができたかと考えている。

●中学生・・・先生を介さない「大人社会との関わり」が増える。気配りや社会の中での礼儀や敬語などはできている反面、クラスや限られた空間では「周りの目を気にして自分の思いをいえない」子どもが目立つ。

大学でもどうやってコミュニケーション力をつけるかときいたら「あいさつ運動」というくらい。学生もコミュニケーションがとれていない実態が。集団を作っていくのも教師の役割?

コミュニケーションの取り方を知らなかったり遊び方がわからなかったりする子どもたち。それは何故か?

四角で囲まれているのは、出された質問。

子ども同士のつながりを密にするためにどんな指導をしますか?

●先生は子どもと一緒に考える。基本は本人同士の解決が一番と思うので入りすぎない。

また異年齢集団は学校でできますか?との問いには

小学校・・・縦割り活動

中学校・・・クラブ活動が主

小学校では学級会でされて嫌なことなど話し合えるのに、中学校になるとそんな場面は減る。何故？

自治の経験なく、中学生になっている。「伝えられない」もしくは「伝えていいの？」という子ども。

●スキルの問題

●先生に対する不安 早急に解決が必要。

●人と関わりない いじめ「いえない」「いわない」「いわなくても大丈夫」→話し合いをしないで終わる →よくない→結論よりもみんなの気持ちをひとつにさせることが必要ではないか。

コミュニケーションがしたくなるようなクラスをどうやって作るか？

●ペアで話をする。

●聞く姿勢を具体的に教える（あいうえお）

●聞いてもらえると思えるタイミングで発表することを指導する。

関係を作る

① あの人と話やったら聞いてあげたいという信頼関係

②しつけの面でのスキル

受け止め方では「マナー・ルール」を重視するよりもその向こうにある理念を共有。

その後、分科会では小学校とそれ以外に分かれて話し合いを行った。

教師の抱える仕事が多く、教師間のコミュニケーションがとりづらくなっている。子ども同士のトラブルが親のトラブルに発展したときに難しさを感じる。などの話が出された。

上